Sanriku-geopark
第９４号
令和５年１１月発行
きんぐ ジオだより
三陸ジオパーク推進協議会

三陸ジオパークシンポジウム&フェスタ開催

《ジオ×トレイル×郷土芸能》

８月６日、三陸ジオパーク日本認定１０周年記念とみちのく潮風トレイル全線開通５周年プレ記念事業として、宮古市の文化交流施設「イーストピアみやこ」でシンポジウムを開催しました。タイトルは、
「三陸の大地が育む文化・伝統・食の祭典
～Hike MCT! and Enjoy GEOPARK!～
みちのく潮風トレイルを歩いて三陸の文化を体感しよう」。
イベントでは、三陸復興国立公園にも指定される、三陸の豊かな文化の魅力と、その魅力を存分に体験できるみちのく潮風トレイルを国内外に発信すると共に、ジオと、風土・歴史文化・生業等との関係性に着目した付加価値化により、地域の活性化と地域経済の発展につなげる機運の醸成を図りました。

三陸の多様な風土や郷土芸能、豊かな食文化は三陸地域の地理的要因がその地で育み発展してきました。人と自然の共生の場である豊かな自然が育む三陸沿岸の歴史文化・伝統・食はジオパークそのものです。

全線開通から来年５周年を迎えるみちのく潮風トレイルは、三陸ジオパークを歩いて旅することのできるロングトレイルです。みちのく潮風トレイルを歩けば、これらの関係性を理解し、またその価値や希少性等を自然と再認識することができます。

また、前日の５日には三陸の郷土芸能鑑賞を組み込んだ特別企画のエクスカーションツアーを各地で実施しました。その模様は紙面の後半で特集します。

三陸ジオパークアンバサダーに後藤萌咲さん

ジオパークのポロシャツは
限定カラーのピンクで！

ジオパークフェスタでは、物販フードコーナーでMCを務めてくださいました

後藤萌咲さんは、元AKB48のメンバー。復興支援の地域イベントで、たびたび三陸を訪問していました。このたび三陸ジオパークアンバサダーにご就任いただき、「これからもずっと三陸を応援していきたい」と話してくださいました。これからジオパーク活動を共に推進していくアンバサダーとして、地域のイベントや活動、三陸ジオパークのPRにご協力をいただくことになりました。これからの活動がますます楽しみですね。よろしくお願いいたします。

オープンスペースにシンポジウム会場を設置し、郷土芸能のステージも用意しました

基調講演「ジオが育む三陸の風土と地域経済活性化の可能性」より

文教大学教授　海津ゆりえ氏

- **エコツーリズムとジオツーリズム**

　エコツーリズムとは、「地域が守ってきた自然、文化などの宝を伝えて地域を興す観光」です。資源の保全の上に観光が推進され、地域の活性化につながという循環こそが大事で、これはジオパークにも共通することです。

- **宝さがしをはじめよう**

　東日本大震災を契機に、地域の宝を探してものを使ってツアーを作り、三陸に思いを寄せている人が来られるチャンネルを作るプロジェクトに取り組んできました。

　宮古市をベースに、たくさんの人と会い、伝統文化や食、自然や歴史、復興についてお話を伺いました。学生も入って企画した黒森神社のツアーは定着して現在に至っています。またその時に「フェノロジーカレンダー」（＊）も作りましたが、これはとてもおすすめです。

- **「ジオ目線」でみた宝探し**

　色々な宝を発見しましたが、改めてジオ目線で読み解いてみると、地形地質から食、生業、そして信仰にまで至るつながりが見えてきます。こういうつながりから外れているものは一つとしてなく、例えば特産品の瓶ドンがなぜここで売られているのかを紐解いていくと必ずジオに辿り着きます。ジオパークはジオの物語と恵みに出会える場所ということができます。皆さんの宝さがしをぜひ続けてください。

- **日本の観光とジオパーク**

　日本にはジオ資源を守る仕組みとしての法制度がありますが、これは日本の強みです。そして地域には、活用の知恵があります。「お土産文化」は地域の特産品を買って帰るもので、ジオの恵みを認定商品化しようという動きも各地にあります。日本人は元々ジオの活用が得意です。

　地域の資源はこれまでは「点」でしたが、現在は点を線に、さらに面にというのが主流になりました。三陸には、みちのく潮風トレイルがあります。ジオサイトを結ぶルートを歩くことで、歩くスピードで色々なものに出会うことができ、迎えてくれる人との交流が生まれます。

- **地域経済活性化とジオパーク**

　ジオパーク活動が、「大地と暮らし、生業の結びつきを再確認すること」だと考えると、ジオパーク認定は大地の上に築かれた揺るぎない価値があること、地域のブランドを証明するものと言えます。

　ジオパークでは色々なことが要求されますが、ガイドをはじめとする人材、ジオ目線で再構築された産物のストーリーなどの「地域の資産」が増えていくのは大きなメリットです。この増えた資産で人や智慧が集まり、地域に還元されるという循環につながるからです。

　最後に、ジオパークは面白いです。16市町村が繋がる唯一無二の機会を大事に、三陸ジオパークをみなさんで育てていってください。

＊フェノロジーカレンダーとは、地域の自然と人の営みを表した生活季節暦。まちおこし・観光・学習など、さまざまに活用できます

＊パネルディスカッション「三陸の地形・歴史・文化資源の磨き方～三陸ファンを作ろう！」については次号以降に連載します

「もーりぃ　の　さんりくジオ話」
三陸ジオパーク専門員の盛合秀がお届けします

　みちのく潮風トレイルとは、青森県八戸市から福島県相馬市までを結ぶ歩行専用道のことです。このトレイルの区間内に三陸ジオパークは位置しているため、トレイルを歩きながらジオを体感する事ができます。森林の中を通ったり、沢を超えたりするなど貴重な経験が出来るだけでなく、実際に歩くことでリアスとテラス（海成段丘）の違いを目でも体でも感じることができます。個人的には、普代村のネダリ浜と田野畑村の手掘りトンネルを通るルートが露頭を間近で見ることができ、迫力あるのでオススメです。このトレイルコースでは熊の目撃情報もありますので、熊鈴などの対策したうえで是非歩いてみてください。

Enjoy! ジオパーク　エクスカーションツアー①

《久慈コース　ジオトレイングルメ》

【行程】
11：00　　三陸鉄道久慈駅集合
11：20～　藤織ガイドの久慈市内まちあるきツアー
12：50～　三陸鉄道「ジオトレイン」に乗車
　・車内ランチ　　（久慈名物ウニ丼）→
　・藤織ガイドによる三陸ジオパーク＆クイズ
13：35～　普代駅到着後、鵜鳥神楽鑑賞・参加者交流
15：30　　定期列車で久慈駅に戻り、解散
【現地ガイド】
　三陸ジオパーク認定ガイド　藤織ジュンさん

「堀内駅」からの景色は絶景！
あまちゃんでは、「袖が浜駅」として
ロケ地になりました。

酷暑の中でしたが、普代駅前で鵜鳥神楽
を演舞していただきました。

　この日のお天気は快晴で、ジオトレインの車窓からは青々とした空と海の絶景が拝めました！が、県北とはいえ、かなりの猛暑日となりました。そのため、まちあるきツアーは参加者の皆様、とても大変そうな様子でしたが、道の駅くじやませ土風館「久慈まつりの山車展示」や「琥珀の窓」等を巡り、久慈市の歴史や文化に触れることができました。まち歩きの後の久慈駅内での四作商店さんのおぼろ昆布手削り実演では、試食もでき、参加者の皆様から好評でした。
　その後、ジオトレインの車内では、ウニ丼を食べながら、認定ガイドの藤織さんによる三陸ジオパークの解説やクイズが行われ、全員で盛り上がりました。
　普代駅で下車後、鵜鳥神楽を鑑賞し、演者の方とも楽しく交流を深めることができ、思い出となる一日になりました。

《宮古コース　トレイルウォーキング》

現地ガイド・松下さんの説明に
真剣に耳を傾ける参加者の皆さん。

【行程】
　浄土ヶ浜ビジターセンター集合→浄土ヶ浜ガイドウォーク
　→浄土ヶ浜レストハウスで昼食（瓶ドン）→ミニトレッキング
　（蛸の浜、浄土ヶ浜大橋）→郷土芸能観賞（津軽石さんさ踊り）
　→解散
【現地ガイド】
　三陸ジオパークの認定ガイド　松下竜之介さん、在原歌織さん

　当日は30°C超えの猛暑でしたが、浄土ヶ浜の自然と津軽石さんさ踊りを一目見ようと、県内外から16名の方に参加いただきました。ツアー前日、「三陸ジオパークアンバサダー」に就任されたばかりの元AKB48メンバー、後藤萌咲さんにも参加いただきました！

　最初は、浄土ヶ浜の美しい風景を見ながら、そして認定ガイドによる説明を聞きながら、レストハウスまでのウォーキングを楽しみました。
　昼食は、宮古の名物・「瓶ドン」を食べました。「瓶ドン」は、瓶に詰められた旬の食材をご飯にかけて食べる体験型のご当地丼。→
自分で作る楽しさと、三陸の誇る新鮮な海産物を味わいました。
　その後は、浄土ヶ浜周辺をトレッキングし、ツアーの締めくくりとして津軽石さんさ踊りを鑑賞しました。
　津軽石さんさ踊り保存会の皆さんは、華やかな衣装に身を包み、暑さをものともしない迫力ある演舞を披露していただきました。浄土ヶ浜をバックに優雅に舞うその姿に魅了される、素晴らしいひと時でした。
　参加者の皆さんも、暑い中でしたが体調を崩すことなく、最後まで思う存分ツアーを楽しんでいただきました！

津軽石さんさ踊りの演舞の様子。
鮮やかな衣装と踊りが目を引きます。

Enjoy! ジオパーク　エクスカーションツアー②

《釜石コース　漁船クルーズ》

漁船クルーズで海からえびす様を望む

【行程】
８月５日（土）12：00～16：00
12：00～　魚河岸テラス「ヒカリ食堂」特製ジオランチ♪
13：30～　釜石港湾内漁船クルーズ
15：00～　郷土芸能鑑賞「釜石錦町虎舞」

当日のお天気は快晴で輝く海と青空が広がりましたが、気温は猛暑日。参加者の皆様にはしっかり熱中症対策をして楽しんで頂きました。

ヒカリ食堂では、釜石産の食材を使った海鮮丼やどんこ（エゾアイナメ）のフライ等の特製ランチを頂きつつ、盛合専門員から三陸では欠かせない「付加体（ふかたい）について」のジオミニ講座で知識も深めました。

錦町虎舞の演者の皆様と

漁港クルーズは、潮風を気持ちよく受けながら、漁師さんのガイドで普段は見ることができない奇岩や地層で三陸ジオパークを感じつつ、正面からの釜石大観音、湾口防波堤のギネス記録の記録版等も見ることができました。

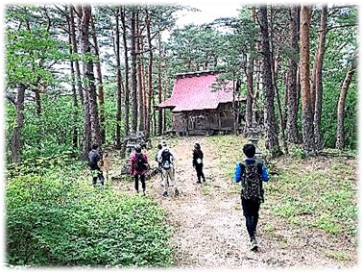
下船後に、釜石錦町虎舞を鑑賞。残念ながら暑すぎたため室内での演舞となってしまいましたが、参加者と舞手との交流も盛り上がり、大満足の一日となりました。

《トレイル＆ジオパークで　ファムトリップを実施》

今年度、三陸ジオパーク推進協議会では、みちのく潮風トレイルと連携し、文化庁の「日本博2.0事業」を活用してインバウンド対応の旅行商品を造成しました。そのためのファムトリップでは、みちのくトレイルクラブを中心に、地球の歩き方総合研究所のプロデュースにより、三陸を歩いてこそ味わう豊かな自然と歴史文化、そして郷土に伝わる芸能と料理などを余すところなく体験してもらうツアーを組み立てて、モニターツアーを実施しました。日本に来る外国に方にとっては、三陸の地はとても魅力あふれる地域で、ロングトレイルを歩くハイカーの方も最近とても増えているそうです。

日本に住んでいる私たちにとっては、山があり川がありという自然の風景は当たり前ですが、世界から見ればそれは日本の特徴のひとつであり、独特の文化を育んできた日本の風土は他に類を見ないものなのかもしれません。国内においても、それぞれの地域ごとに歴史や文化が違います。三陸の各市町村ごとや集落ごとでも違ったりするのです。今のように交通手段が発達していなかった時代には、人は歩いて行ける範囲でのみ、行き来していたからなのではと考えられます。

長い時間をかけて地球の活動がつくり出した三陸の大地を歩いてみると、そんなストーリーに思いを馳せます。



鵜鳥神社の本殿まで　上がってきました

【みちのく潮風トレイルセルフガイドツアー】（奥ジャパン株式会社）
7日間コース >> https://www.okujapan.com/trips/michinoku-coastal-trail-self-guided-walking-7-days/
6日間コース >> https://www.okujapan.com/trips/michinoku-coastal-trail-self-guided-walking-6-days/

編集後記：いつの間にか季節はすっかり変わり、あの暑かった宮古市でのシンポジウムの１日もすでに「良い思い出」状態に・・・そして、これほどの充実したテンコ盛りのイベントだったのかと、振り返りながら感慨深げに編集していました。当日は他のイベントのバッティングがたくさんあるという情報も聞きましたが、今号のジオだよりを見てツアーなど参加したかった！知らなかった！行きたかった！と残念がっている方は、次回にはどなた様もどうぞご参加ください。
パネルディスカッションの模様は、次号以降も連載でお伝えいたします。どうぞお楽しみに！　　～と～

三陸ジオパーク推進協議会
〒027-0072
岩手県宮古市五月町1－20
（宮古地区合同庁舎2階）
TEL:0193-64-1230
FAX:0193-64-1234
info@sanriku-geo.com
https://sanriku-geo.com/
facebookはこちら！